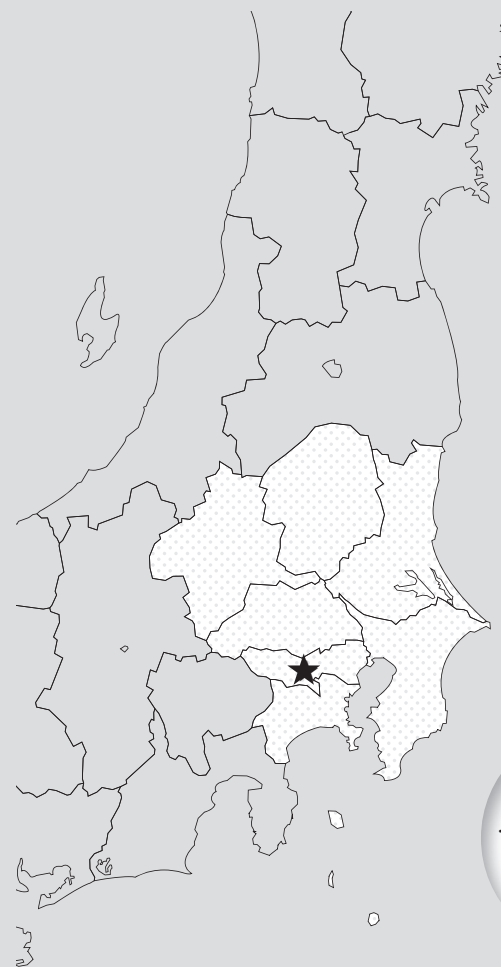


第1部

ユネスコスクール
地域交流会 in

関東



ユネスコスクール地域交流会 in 関東



期日 2012年11月23日(金・祝)

会場 東京都多摩市 パルテノン多摩

参加者数 約250名

発表者27名(英国人招へい者2名含む)、ファシリテーター6名

来賓・関係者約50名、一般参加者 約130名、多摩市の児童・生徒約40名

- ▶ ユネスコスクール教職員(北海道、岩手県、宮城県、新潟県、石川県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、静岡県、愛知県、奈良県、岡山県、広島県、福岡県)
- ▶ 教育機関関係者、教育・環境関係NPO/NGO、市民活動団体、企業のCSR担当者

「2050年の大人づくり」をキャッチフレーズに、全市的に持続発展教育(ESD)の推進に取り組む多摩市において、地域内・地域間のユネスコスクールの交流の促進を目的とする「ユネスコスクール地域交流会in関東」を開催しました。

午前中のプログラムでは、さかなクンによる特別講義のほか、イギリスのサウスエンド・オン・シーより2名を招へいし、多摩市との交流事例をご発表いただきました。

午後は5つのテーマごとに、発表者による実例や成果発表を踏まえ、一般参加の方々も加わって交流するワークショップ形式で分科会を行いました。参加者それぞれが抱える課題や疑問に即した活発な意見交換がなされました。

参加者は北海道から福岡県まで全国から広く集まり、日本ユネスコ国内委員会事務局を訪問していた中国、韓国、タイ、スリランカのユネスコ国内委員会スタッフもオブザーバーとして参加しました。

開会
あいさつ



文部科学省 井村隆 国際統括官補佐



多摩市 阿部裕行 市長

交流会
趣旨説明



ユネスコ・アジア文化センター
島津正数 事務局長

特別講義
「多摩川の魚」



さかなクン 日本ユネスコ国内委員会広報大使/東京海洋大学客員准教授

クイズコーナーでは児童・生徒も積極的に参加し、魚や河川の環境問題に関する知識をたくさん得ることができました。

特別講演
「川をめぐる
国際交流」



多摩市教育委員会 清水哲也 教育長

英国からの特別ゲストお二人より、多摩川とテムズ川をきっかけとした多摩市とサウスエンド市の国際交流の実例や教育現場への影響などが発表されました。



講演Ⅰ「テムズから多摩へ 2012」
サウスエンド・エデュケーション・トラスト
サンドラ・ロバーツ CEO



講演Ⅱ「サウスエンド・オン・シーの学校生活」
チェイス高校 アリソン・ドミニー 副校長



多摩市立多摩中学校 生徒

英語
スピーチ

各分科会報告

地域との連携

ファシリテーター：多摩市立青陵中学校 佐々木雅一 教諭

当分科会には、学校関係者、地域の方、大学関係者など40名弱の参加がありました。まず4校の小学校から地域と連携した実践報告をしていただきました。各校共通するのは学校側が積極的に地域の宝物さがしをしている点でした。教員が地域を魅力的にとらえることが学校と地域の連携の出発点であると改めて実感しました。

その後の協議で、学校と地域と一緒に教育を行うメリット、課題、課題解決のための工夫の3点について、参加者全員でアイデアを出し合いました。地域と学校が共に教育を進めることで、子どもたちは多様な人とふれあう機会を得て、社会の複雑さを学べるというメリット以外に、活動自体が長続きする、学校への理解が深まるなど、学校経営上のメリットも浮かんできました。一方、学校と地域のスタンスの違いや、学校側の人事異動による影響などの課題も見えてきました。地域コーディネーターの重要性や、将来的には行政内にESDの担当者を置き、安定した支援体制の確立も必要であると議論が深まりました。

